

H27年度 第1回高幡地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：8月27日（木）14:00～16:30

場所：須崎総合保健福祉センター2階会議室

1 議事等

- (1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて
 - ・H27年度のスケジュールを説明
- (2) 地域アクションプランについて
 - 1) 市町村・住民等との意見交換の概要について
 - ・各市町村での意見交換の概要について説明
 - 2) 高幡地域アクションプランの3年半の取り組みの総括について
 - ・全48項目について説明

2 意見交換

<産業振興計画関連 年間スケジュールについて>

- ・特になし

<地域アクションプランについて>

○市町村・住民等との意見交換の概要について

- ・特になし

○3年半の取り組みの総括について

- ・(No.11 直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進) 生産農家の高齢化が顕著で、JA四万十管内だけでは農産物の出荷額がこれ以上伸びないため、大正地域、十和地域の農家の皆さん方にも声をかけ生産農家も拡大したところ。今後、農産物の出荷を伸ばしていきたい。

- ・手作りキッチンが、当初の目標を大きく達成しており、本年度も順調に伸びている。これは地域の女性部の皆様方の熱意が伝わったのではないかと考えている。

- ・(No.10 集落営農組織のステップアップの推進) 農協だけでなく、市町村、県も一体となって取り組んでおり、地域の農地は地域で守ることをコンセプトとして今後とも進めていきたい。

- ・(No.4 JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化) ミヨウガについては、次年度も後継者が約13名いる。ここ10年間で毎年10人以上の農業後継者がいるので、これから10年を見る限りでは、生産者は大きく減少はしないという調査結果が出ている。販売額60億円とあわせて、引き続き頑張っていきたい。

- ・(No.24 津野町森林・林業再生プロジェクト) 国有林でも、県内で生産された材は県内で何とか消費できるような働きかけをしていきたいので、首長の皆様にも、機会があれば森林管理署に働きかけていただきたい。

- ・(No.8 梶原町キジ肉の生産・販売の拡大) キジの生産はニワトリと同じような形の鶏舎で飼育しているのか。また、生産者は何名いるのか。

→平台といって、平たいところで自由に運動できるようなスペースで飼っている。生産者は現在6名である。

・(No.40 高幡地域における広域観光の推進) 行政、商工会だけではなく関係者全体で、総括や今後の方向性、これから行く道というものをしっかりと共有することが大事である。奥四万十博は商工会が中心になり、広げていくことが大切である。

・(No.19 「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用) 販売という点でかなり苦労しているが、県の方向性をお伺いしたい。

→メインが住宅のため、消費税駆け込み需要の後、売り上げは落ちている。いかに外材から国産材へ引き込んでくるかという話に尽きる。外材は安定的に供給できており、きちんとした品質もある。国産材も安定的に木材を生産し、供給していくことが大事である。

・(No.36 「中土佐町のうまいもん食わしちゃお」商品開発プロジェクト) 「かつお生姜煮」という新商品を出したばかりで、販路の拡大が課題。チチコを使った商品がないので、これから研究をしていきたい。また、野見・大谷の友人と連携をしながら、面白い商品づくりをしていきたい。

・(No.34 大正町市場商店街活性化事業) 大正町市場という名称に改称し、100周年を迎えた。高速代を払い、わざわざ時間を使って来ていただいているので、それに見合った魅力ある大正町市場を目指して頑張っていきたい。

・(No.15 滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり) 滞在期間を5年から3年に見直した関係で、11名の方が滞在期間を終える結果となった。改めて期間などを見直す必要がある。今後、町と協議をしながら進めていきたい。

・(No.26 美味しい! 須崎の魚(いお)消費拡大プロジェクト) PR不足だと考えており、ぐる一め須崎で魚を買い、駅前食堂で鍋焼きを食べて、旧三浦邸でミニ観光をするというような、線で結ぶ仕組みを考えていきたい。また、体験型観光については、現在、観光の経験者を入れるように準備をしており、観光協会の組織をしっかりしたものにしていきたい。

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課(地域産業担当)

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp